

# N8151-105/125 及び N8160-84A RDX ファームウェアアップデート手順

Rev. 1. 1

RDX 装置をお買い上げいただきましてありがとうございます。本書は、N8151-105/125 内蔵 RDX 及び N8160-84A 外付 RDX のファームウェアアップデート手順について記載しております。

## 1. 概要

N8151-105/N8151-125 及び N8160-84A RDX のファームウェアを“0227”にアップデートします。お手元の RDX 装置のファームウェアが“0227”より古い（数字が小さい）場合、本作業を実施してください。

Windows 環境でアップデートを実施される場合は、GUI ツールのファームウェアアップデートツール“RDX Utility”を使用します。また Linux 環境でアップデートを実施される場合はコマンドラインのファームウェアアップデートツール“RDXCodeLoad”を使用します。

## 2. 変更内容

RDX ファームウェア“0227”には以下の修正が含まれております。

- ・固定ディスクモード機能の追加

備考：固定ディスクモードは、Windows Server Backup の全ての機能を使用できるようにしたものです。

本ファームウェアアップデートを実施しても現在の設定（リムーバブルモード）は変更ありません。

固定ディスクモードの取扱いについては、最新のユーザズガイドを参照してください。

## 3. 必要部材

本手順書に加え、以下の部材があることを事前にご確認ください。

使用環境	必要部材	ファイル名
Windows	ファームウェアデータ	内蔵 RDX : RDX21_NEC_G-0227.bin 外付 RDX : RDX2E_NEC_F-0227.bin
	ツール(RDX Utility) ※1	setup.exe, InstallRDX.exe, Autorun.inf
Linux	ファームウェアデータ	内蔵 RDX : RDX21_NEC_G-0227.bin 外付 RDX : RDX2E_NEC_F-0227.bin
	ツール(RDXCodeLoad) ※2	RDXCodeLoad

表 1 必要部材

※1: “RDX Utility” はインストールが必要となります。

**管理者または管理者権限ユーザ**でログインして作業してください。

また“RDX Utility”は RDX 装置を管理するツールとなりますので、RDX 装置を接続している Windows 環境では“RDX Utility”をインストールしたまま使用されることをお勧め致します。

※2: “RDXCodeLoad” ツールは 32bit バイナリになります。64bit 環境でアップデートされる場合には 32bit ライブラリが必要となります。**root** でログインして作業してください。

## 4. 実施手順

### 4-1. 事前準備

ファームウェアアップデートを実施する前に以下の作業を実施してください。

#### 4-1-1. カートリッジの取り出し

RDX 装置からカートリッジを取り出してください。

#### 4-1-2. バックアップソフトウェアや RDX 装置に関するサービスの停止

バックアップジョブ、バックアップソフトウェアのサービス、その他 RDX 装置にアクセスする可能性のあるサービスは全て停止してください (RDX Utility は除く)。

#### 4-1-3. ドライブレターの確認

ファームウェアアップデート作業により、RDX 装置のドライブレターが変更される場合があります。その為作業前に RDX 装置のドライブレターを記録しておき、作業後にドライブレターが変更されていた場合には、ドライブレターを作業前の値に設定し直してください。

#### 4-1-4. 各環境でのファームウェアアップデート

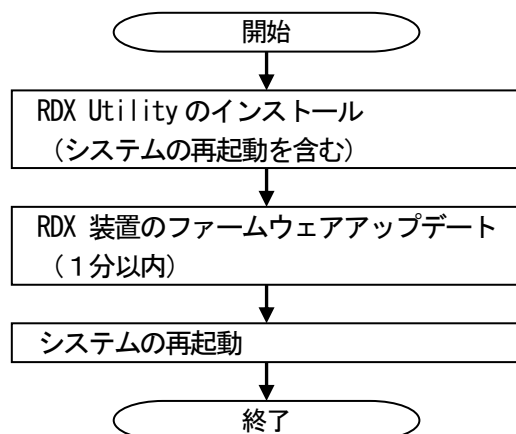
- ・Windows 環境でファームウェアアップデートを実施する場合は、4-2 項に進んでください。
- ・Linux 環境でファームウェアアップデートを実施する場合は、4-3 項に進んでください。

### 4-2. Windows 環境のファームウェアアップデート手順

作業するには、システムに**管理者**または**管理者権限ユーザ**でログインしてください。

以下に Windows Server 2012R2 システムで内蔵 RDX のアップデートを実施した例を示します。

外付 RDX の場合は、ファームウェアデータファイル名を読み替えてください。



## 4-2-1. RDX Utility のインストール

本書でインストールする“RDX Utility”はバージョン“1.57”です。  
古いバージョンを既にインストールされていた場合は、事前にアンインストールが必要です。

### 4-2-1-1. RDX Utility の確認

アプリの一覧を参照して、以下のように“RDX Utility”がインストールされているかを確認します。  
“RDX Utility”が無い場合は、4-2-1-3に進んでください。



図 4-2-1

図 4-2-1 の“RDX Utility”を起動します。次のように接続している RDX 装置の FW Rev 等が表示されます。

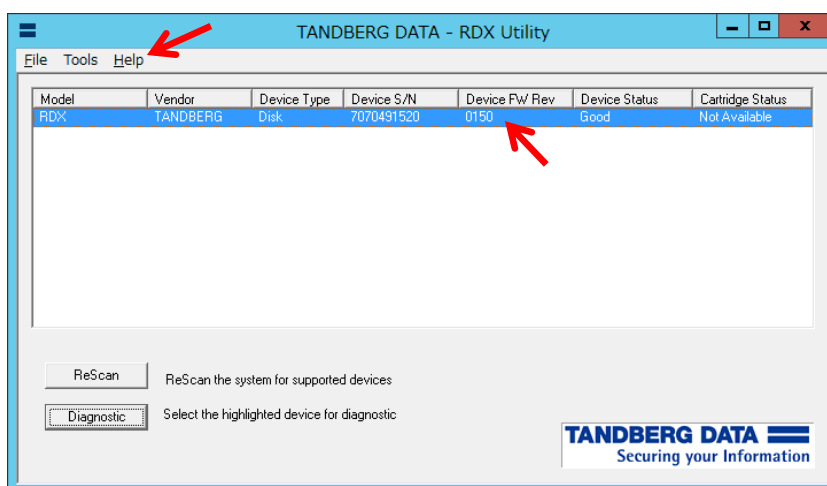


図 4-2-2

図 4-2-2 のツールバーから“Help”→“About Utility..”を選択します。

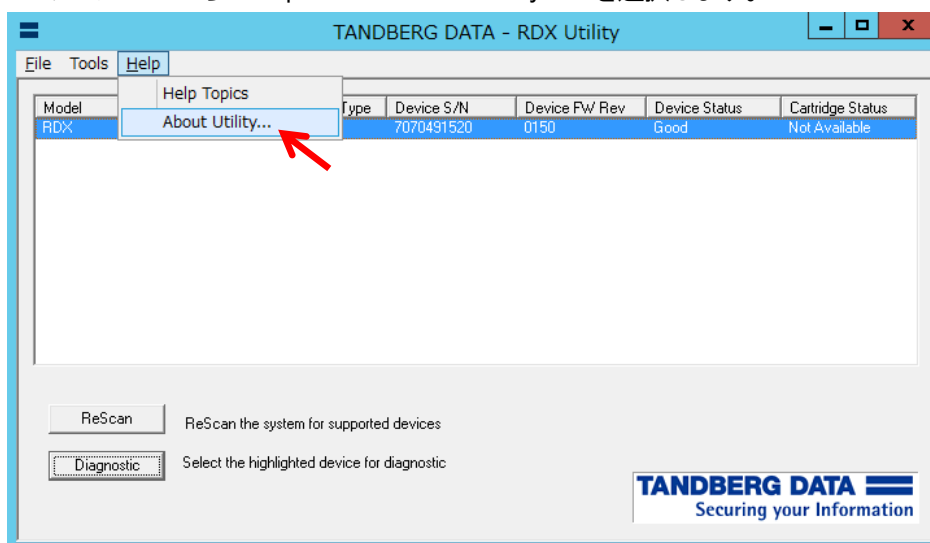


図 4-2-3

表示されたバージョン “Utility Installer version” を確認してください（例では1.54）。

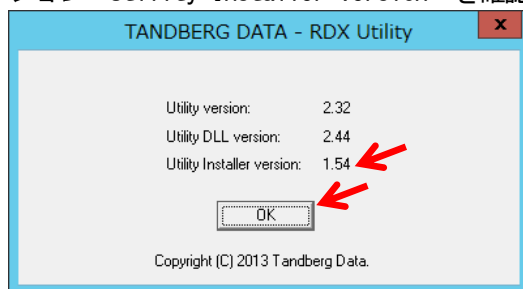


図 4-2-4

確認後、“OK” をクリックします。バージョンが1.57である場合は、4-2-2-1に進んでください。古い場合は、“RDX Utility” を閉じ(右上の ‘X’ をクリック)、アンインストールします。

#### 4-2-1-2. RDX Utility のアンインストール

図 4-2-1 で “Uninstall RDX tools” を起動します。次の画面で “はい” をクリックします

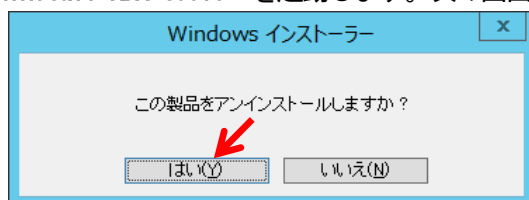


図 4-2-5

次の画面でアンインストールするバージョン（例は1.54）を確認し、“OK” をクリックします。

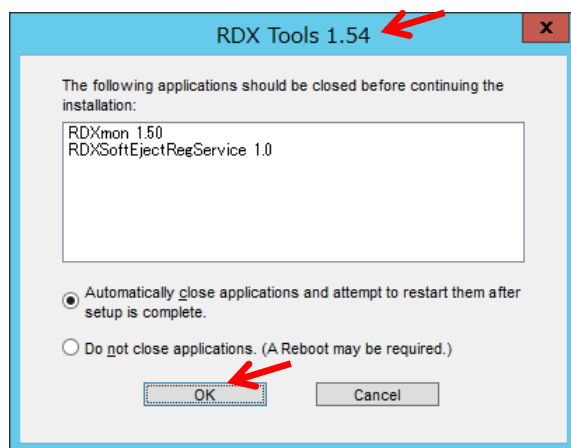


図 4-2-6

アンインストールが開始されます。

1 分以内で完了し、アプリの一覧から “RDX Utility” と “Uninstall RDX tools” が削除されます。

### 4-2-1-3. RDX Utility のインストール

必要部材の“Tool” -> “Windows” ディレクトリを開き、“setup.exe” ファイルをクリックします。

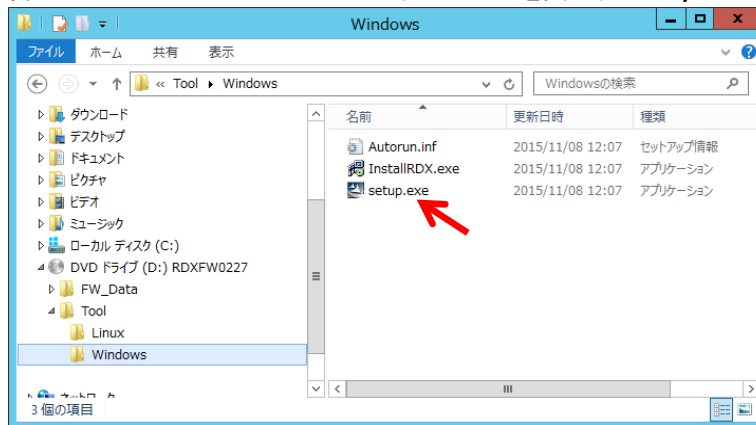


図 4-2-7

次のようにインストールウィザードが起動されます。“Next” をクリックします。

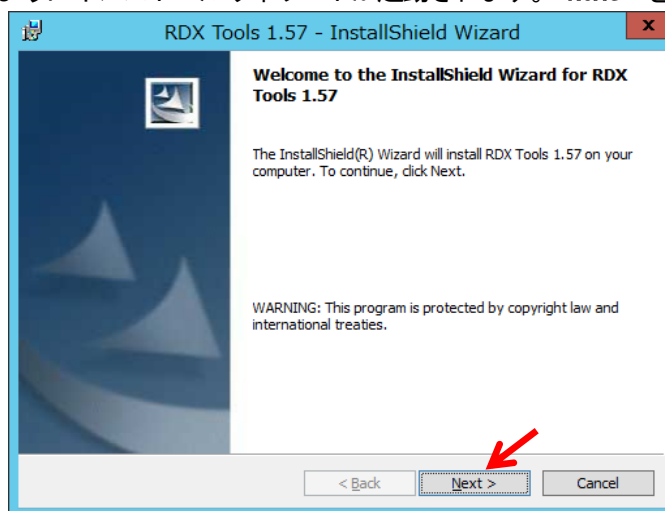


図 4-2-8

“User Name” 欄を確認して、“Next” をクリックします。

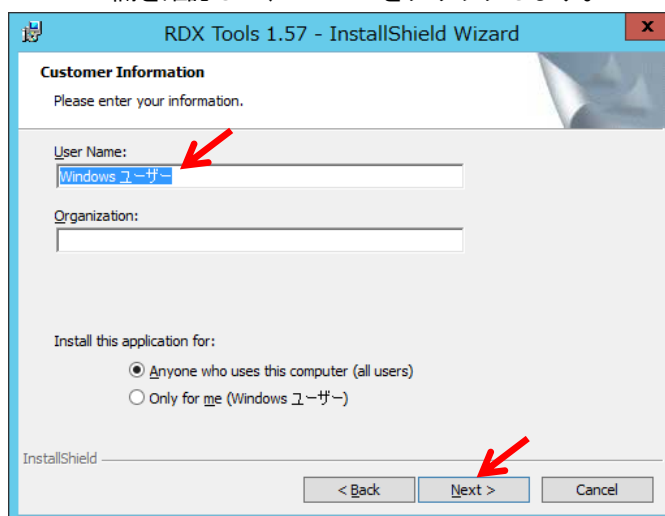


図 4-2-9

インストール先を確認（変更する場合は“Change”をクリック）して“Next”をクリックします。

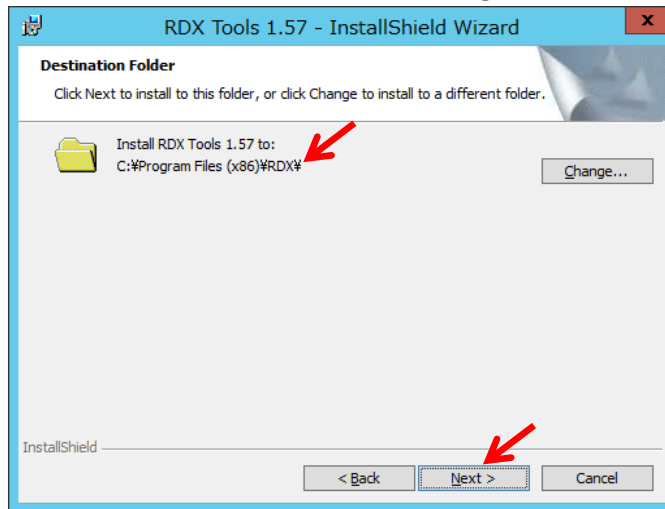


図 4-2-10

インストール設定が表示されます。確認して“Install”をクリックします。

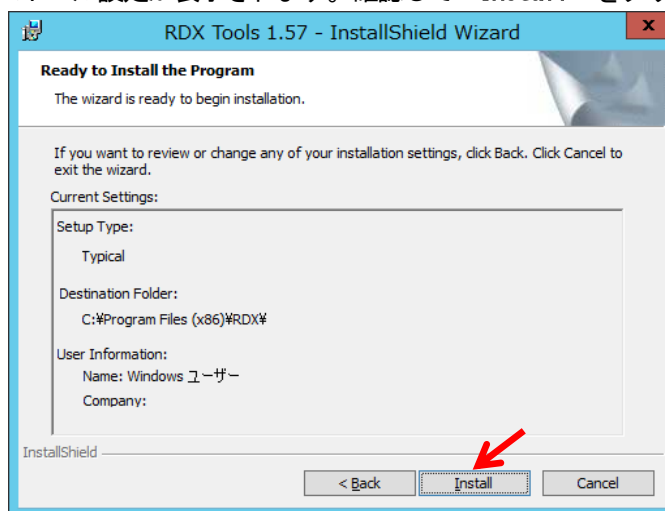


図 4-2-11

インストールが開始されます。

1 分以内に完了し、次のように表示されます。“Finish”をクリックします。

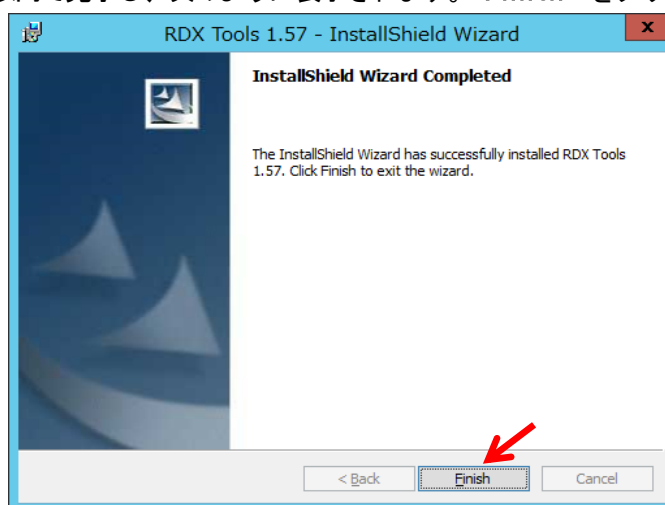


図 4-2-12

システムの再起動が要求されます。“Yes” をクリックします。

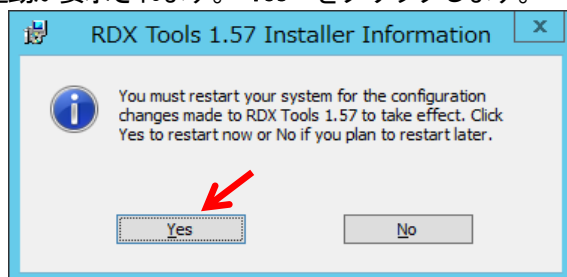


図 4-2-13

再起動完了後、アプリの一覧に“RDX Utility”と“Uninstall RDX tools”が追加されます。

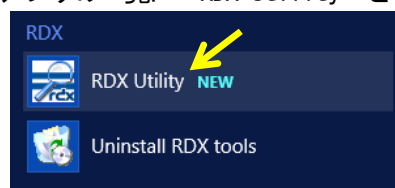


図 4-2-14

“RDX Utility” を起動して、ツールバーから“Help” → “About Utility..” を選択します。次のように“Utility Installer version”が“1.57”と表示されます。

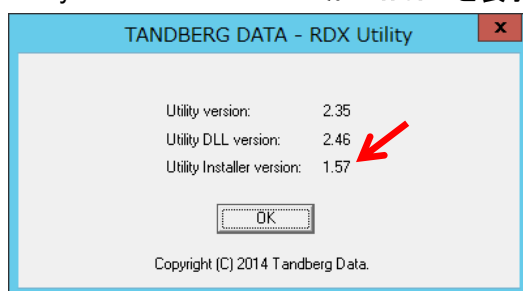


図 4-2-15

4-2-2 に進んでください。

#### 4-2-2. RDX 装置のファームウェアアップデート

以下に“RDX Utility”バージョン1.57を使用して、内蔵RDXのファームウェアを「0150」から「0227」へアップデートする手順を例として示します。

外付RDXのアップデートを行う場合には、ファームウェアデータファイル名を読み替えてください。

#### 4-2-2-1. RDX 装置のファームウェアバージョンの確認

図 4-2-14 の“RDX Utility”を起動します。次のように接続されている全ての RDX の状態が表示されます。何も表示されない場合には、システムと RDX 装置の接続を再確認して、“ReScan”をクリックしてください。“Device FW Rev”のファームウェアバージョンを確認してください（例では、「0150」）。

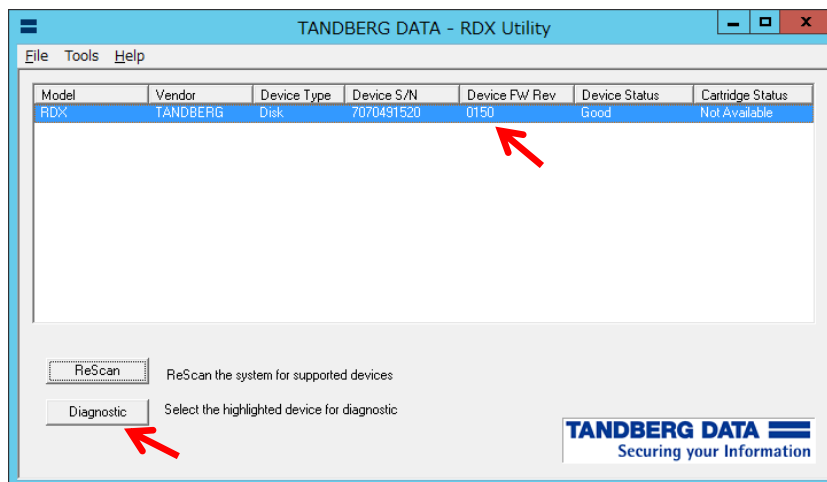


図 4-2-16

ファームウェアバージョンが、「0227」より古い（数字が小さい）場合は、4-2-2-2に進んでください。ファームウェアバージョンが、「0227」の場合は、アップデート作業は必要ありませんので“RDX Utility”を閉じます（右上の「X」をクリック）。

#### 4-2-2-2. RDX 装置のファームウェアアップデート

図 4-2-16 でファームウェアをアップデートする RDX 装置を選択し、“Diagnostic”をクリックします。次のように選択した RDX の“Status”タブが表示されます。ここでファームウェアバージョンを再確認できます。“Utility”タブを選択します。

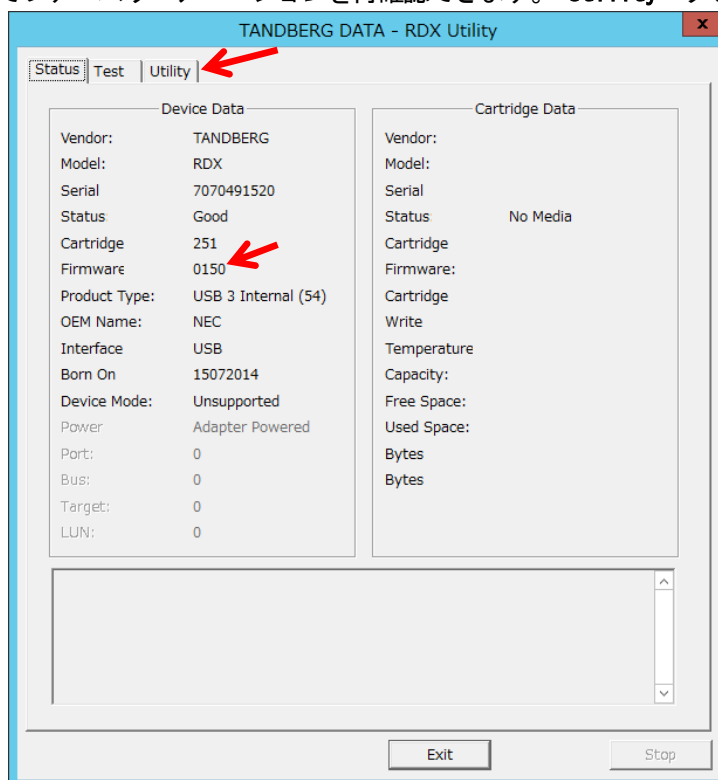


図 4-2-17



次のように“Utility”タブが表示されます。“Change Firmware”をクリックします。

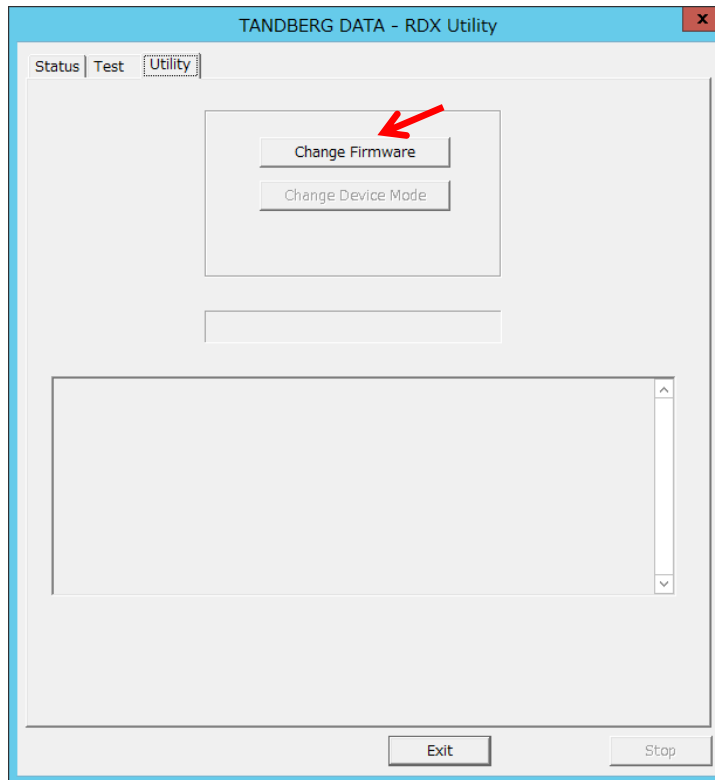


図 4-2-18

次にファームウェアデータファイルの選択画面が表示されます。  
必要部材の“FW\_Data”ディレクトリから RDX タイプに適したファームウェアデータファイル（例は内蔵 RDX）  
を選択して“開く”をクリックします。アップデートが開始されます。  
内蔵 RDX : RDX2I\_\_NEC\_\_G-0227.bin      外付 RDX : RDX2E\_\_NEC\_\_F-0227.bin

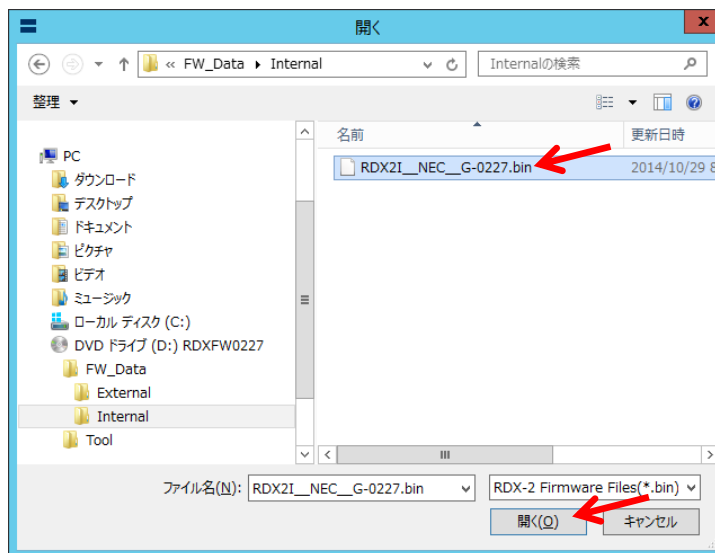


図 4-2-19

1分以内に終了します。正常終了すると“COMPLETED SUCCESSFULLY”が表示されます。

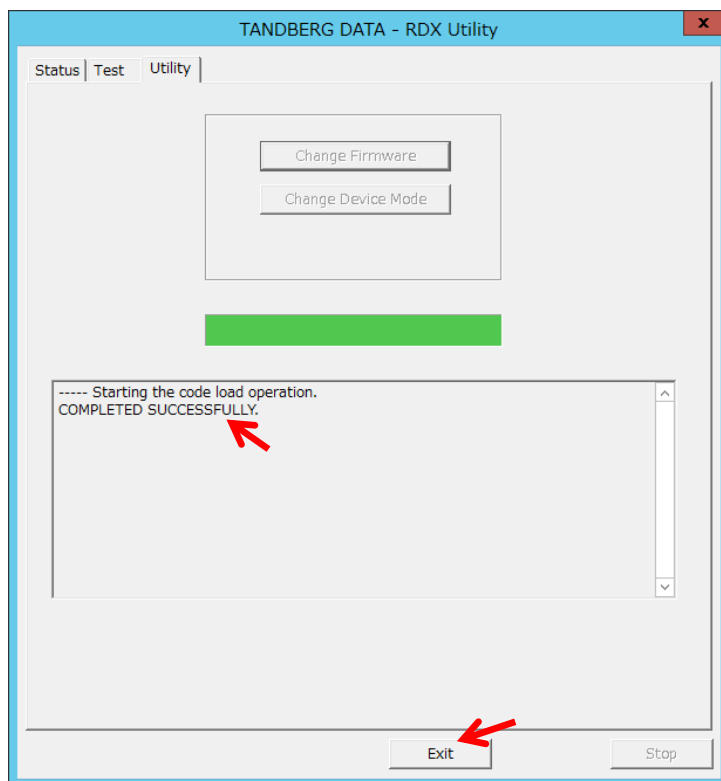


図 4-2-20

“COMPLETED SUCCESSFULLY” 以外が表示された場合には、RDX 装置タイプと選択したファームウェアデータファイルを確認して 4-2-2-1 から再実行してください。

図 4-2-20 で “Exit” をクリックします。メイン画面に戻ります。

“Device FW Rev” が「0227」に更新されていることを確認してください。

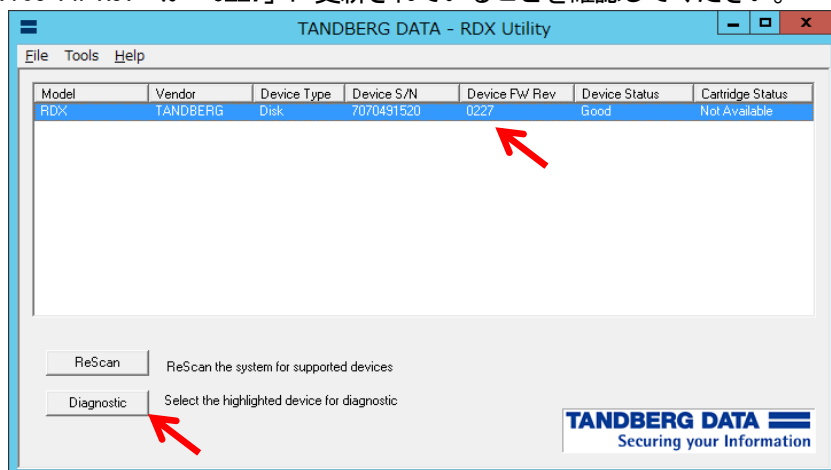


図 4-2-21

アップデートした RDX 装置を選択し、“Diagnostic” をクリックします。  
“Device Mode” が “Removable Disk” であるのを確認してください。  
“Exit” をクリックし、“RDX Utility” を閉じます。

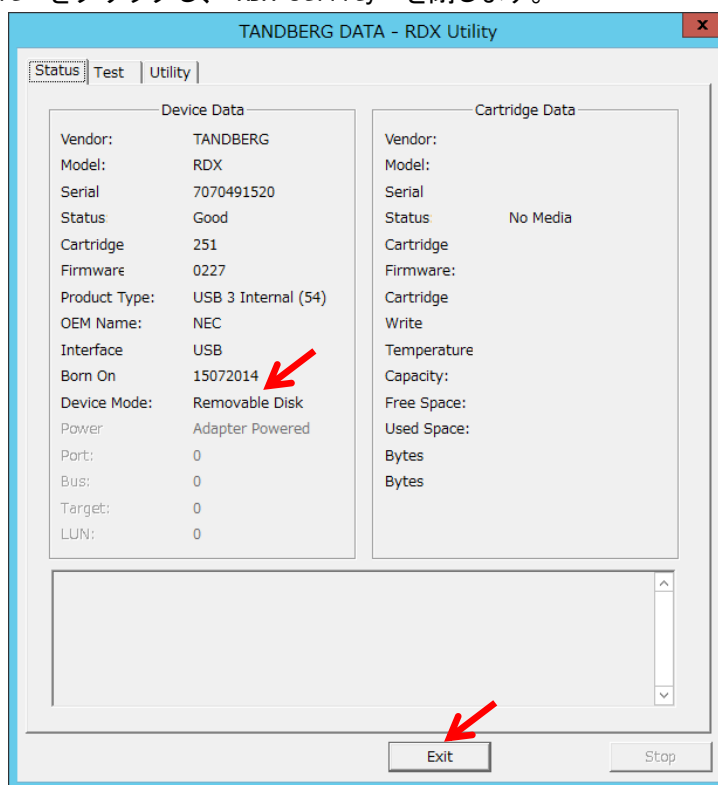


図 4-2-22

#### 4-2-2-3. システムの再起動

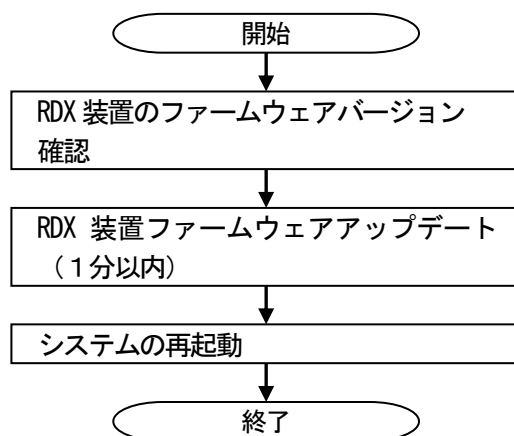
RDX 装置を接続しているシステムを再起動してください。

以上で作業は完了です。

尚、“RDX Utility” は RDX 装置を管理する為のツールとなりますので、インストールした状態でご使用ください。

#### 4-3. Linux 環境ファームウェアアップデート手順

ファームウェアアップデートツール “RDXCodeLoad” は 32bit バイナリです。64bit 環境でアップデートする場合には事前に “glibc”、“glibc-devel”、“libstdc++” の 32bit 版パッケージをインストールしてください。作業するには、システムに “root” でログインしてください。以下に RHEL6.5 システムで内蔵 RDX のアップデートを実施した例を示します。外付 RDX の場合は、ファームウェアデータファイル名を読み替えてください。



##### 4-3-1. RDX 装置のファームウェアバージョン確認

###### 4-3-1-1. RDXCodeLoad 実行準備

作業用ディレクトリ（例では、“temp”）を作成し、ファームウェアアップデートツール “RDXCodeLoad” とファームウェアデータファイル（例では内蔵 RDX）をコピーします。作業用ディレクトリ内のファイルを確認します。

“ls -l” を入力してください。

```
[root@localhost temp]#  
[root@localhost temp]# ls -l  
合計 636  
-rw-r--r--. 1 root root 61966 10月 29 08:25 2014 RDX2I__NEC__G-0227.bin  
-rw-r--r--. 1 root root 584985 10月 28 07:51 2014 RDXCodeLoad  
[root@localhost temp]#
```

図 4-3-1

“RDXCodeLoad” ファイルを実行可能に変更します。

“chmod a+x ./RDXCodeLoad” と “ls -l” を入力してください。

“RDXCodeLoad” ファイルの左側に ‘x’ が追加されます。

```
[root@localhost temp]#  
[root@localhost temp]# chmod a+x ./RDXCodeLoad  
[root@localhost temp]# ls -l  
合計 636  
-rw-r--r--. 1 root root 61966 10月 29 08:25 2014 RDX2I__NEC__G-0227.bin  
-rwxr-xr-x. 1 root root 584985 10月 28 07:51 2014 RDXCodeLoad  
[root@localhost temp]#
```

図 4-3-2

#### 4-3-1-2. RDX 装置のファームウェアバージョン確認

図 4-3-2 で “RDXCodeLoad” を実行して、接続されている RDX 装置を確認します。

“./RDXCodeLoad -s” を入力してください。

次のように RDX 装置の情報が表示されます。例ではバージョンは「0150」です。

```
[root@localhost temp]#  
[root@localhost temp]# ./RDXCodeLoad -s  
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>  
<Inventory>  
  <Device vendor="TANDBERG" product="RDX" " number="1" type=" USB 3 Internal">  
    <Firmware> version="0150" </Firmware>  
  </Device>  
</Inventory>  
[root@localhost temp]#
```

図 4-3-3

ファームウェアバージョンが、「0227」より古い（数字が小さい）場合は、4-3-2-1 に進んでください。

ファームウェアバージョンが、「0227」の場合は、アップデート作業は必要ありませんので  
作業用ディレクトリを削除して作業は終了してください。

#### 4-3-2. RDX 装置のファームウェアアップデート

##### 4-3-2-1. ファームウェアアップデート

図 4-3-3 で “RDXCodeLoad” を実行して、RDX 装置のファームウェアをアップデートします。

“./RDXCodeLoad -d -u -p ./ファームウェアデータファイル名” を入力してください

（例では、ファイル名：RDX2I\_NEC\_G-0227.bin）。アップデートが開始されます。

```
[root@localhost temp]#  
[root@localhost temp]# ./RDXCodeLoad -d -u -p ./RDX2I_NEC_G-0227.bin  
Scanning for devices...  
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>  
<CodeLoad>  
  <Device number="1" type=" USB 3 Internal">  
    <Firmware> version="0150" </Firmware>  
    <Package> version="0539" </Package>  
  </Device>  
  Starting codeLoad to device 1  
    <Status result="pass">  
      CodeLoad Successful!  
    </Status>  
    <Message="0">Update successful.. </Message>  
  </Device>  
</CodeLoad>  
[root@localhost temp]#
```

図 4-3-4

1 分以内に終了し、正常終了すると “CodeLoad Successful!” が表示されます。

“CodeLoad Successful!” 以外が表示された場合には、RDX 装置タイプと選択したファームウェアデータ  
ファイルを確認してファームウェアアップデートを再実行してください。

#### 4-3-2-2. RDX 装置のファームウェアバージョン確認

図 4-3-4 でアップデートした RDX 装置のファームウェアバージョンを確認します。

“./RDXCodeLoad -s” を入力してください。

次のように RDX 装置の情報が表示されます。例ではバージョンは「0227」です。

```
[root@localhost temp]#  
[root@localhost temp]# ./RDXCodeLoad -s  
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>  
<Inventory>  
  <Device vendor="TANDBERG" product="RDX" " number="1" type=" USB 3 Internal">  
    <Firmware> version="0227" </Firmware>  
  </Device>  
</Inventory>  
[root@localhost temp]# _
```

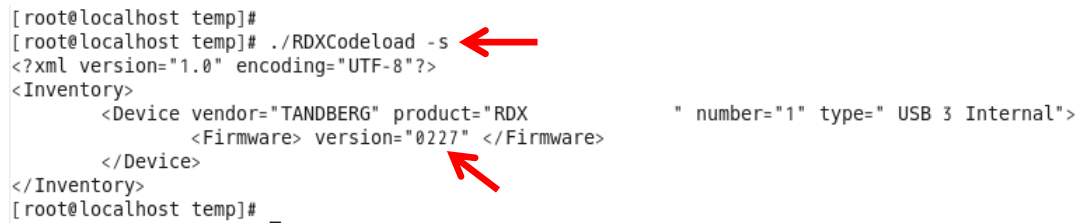


図 4-3-5

作業用ディレクトリを削除してください。

#### 4-3-3. システムの再起動

RDX 装置を接続しているシステムを再起動してください。

以上でファームウェアアップデート作業は終了です。

以上